

あの日、あの時、あの出来事

Our Member's Memory

それぞれが抱く、山住設備と共に過ごした日々

50周年を迎えるにあたり、働く中で特に印象に残っている出来事や画期的な出来事を、数名の社員に語ってもらいました。

東日本大震災が 教えてくれたこと

私が山住設備に入社して特に印象深い出来事は2011年に起こった東日本大震災です。

自然災害では戦後最大といわれる未曾有の災害により多くの尊い生命が失われました。被災地を目の当たりにしてきた我々にとって手を合わせずにはいられませんでした。幸い山形は大きな被害もなかったわけですが、停電により信号機を始めすべての照明等が消え交通渋滞や食料品不足など一時的ではありますが市内がパニック状態になったのを今でも鮮明に覚えています。街中が暗闇の中、この先どうなるんだろう?・・情報が得られない状況で懐中電灯を灯し、寒さと共に不安な一夜を過ごしたのを記憶しています。

東日本大震災前後の会社の業績を振り返ってみると震災前の数年間は衰退の一途をたどり様々なことがありました。震災後はご縁があり岩手県大船渡市での仮設住宅新築設備工事を始めとして宮城・福島両県にて数々の高層分譲マンションや学校、介護施設、工場等々の新築設備と様々な設備工事を手掛けてまいりました。震災による特需的要素があったとは思いますが、あの大変だった時期を齋藤社長を先



震災当時は小学生だった息子たちも中学生に



山口 学
常務取締役営業本部長
2002年入社

頭に柔軟な発想と行動力でサブコン・県外企業との新規取引を行い、様々な施工分野に進出したのが現在の成長基盤となったのは間違いありません。

ここ数年、若い社員が多数入社しました。社内や現場でも活気がみなぎり若手の活躍がようやくうかがえるようになりました。企業の発展には将来を担う人材と技術の継承は不可欠であります。人材＝人財として受け入れて育てる仕組み、そして技術を如何なく発揮できる環境を創造し、社員相互の信頼関係の構築が大切だと思います。我々設備業界は法令や、顧客のニーズ、価値観、機器や配管材料といった扱う商品が大きく変化しています。このような変化に柔軟かつ俊敏に対応できない会社は大きく取り残されてしまいます。いま設立50周年を迎えるにあたり山住設備株式会社を真摯にみつめ、この会社を集う社員、協力会社の方々と共に幸福を永続的に共有できる企業、そしてなによりも山住設備とお付き合いいただく顧客の皆様にとって選び続けられる企業へと成長していきたいと思っています。



岩手県三陸町にてプレハブ住宅の設置

おんちゃん(佐藤蒼吉) との思い出

忘れもしない僕がまだ中学1年生の春(3月15日の前日)、親父が一言!「山形の兄貴山形で店始めっから、皆で手伝いがんばらね!!」と言われて、向町から家族4人でわくわくしながら旅籠町の山形住宅設備株式会社に、応援に駆け付けたのを今でも鮮明に覚えています。小学校4年生から始めたスキー競技、6年生になって初めて町内スキー大会で優勝して、おんちゃん(佐藤蒼吉)に、「ブルワーカー」を買って貰い、「どうせやるなら日本一ならなね!」その言葉と、おんちゃんのご褒美を楽しみにスキー競技を続けてきた結果、おかげさまで中学日本一、高校日本一、大学日本一と、節目節目で優勝することは出来ましたが、残念ながらおんちゃんとの約束だった、「どうせやるなら日本一!」、天皇杯(全日本選手権優勝)にビールを入れて乾杯することは、かないませんでした。シーズンオフに届く豪華なご褒美は、ナショナルの電化製品(今思うと「燃えプロ!」だったのか?)。大学4年生の春に母親が亡くなり、おんちゃんが、「社会の厳しさ教えっから!」と言うことで夏休みに2週間ほど、山住設備でアルバイトをしました。住宅ラッシュだったので、朝から晩までスコップを持って穴掘りをした事と、セメントを練った事を覚えています。夕方になるとおんちゃんに、「今日は走って帰れ!」と言われ、二度ほど、下条から蔵王半郷まで走って帰った事を覚えています。あのころは、楽勝でしたけど(社会の厳しさより、日大スキー部の練習の方が厳しかったです)。

鷲和夫さんの話をしましょう、初めて鷲さんと会ったのは、中学3年生の時です。おんちゃんに、「真知子ねーちゃんと結婚する人だ」と紹介されました。「クロカンは地味な競技らな!」と言われたことを覚えています。

自転車勧められたのも鷲さんからでした。「俺山形大学で自転車部だった。」脚の怪我をしてトレーニングが出来なく、悶々としていた時、「自転車トレーニングは、良いぞ!」と勧められ、それが今でも続いて自転車好きになっています。



佐藤 亮一
工務部安全管理担当課長
2005年入社

大学に進学が決まった時に、自己紹介する時の歌を覚えてもらいました。なんだと思います?「♪♪おらが一故郷山形の...♪♪」おかげさまでこれが結構受けたんです。自己紹介も、地味なクロカンをやっている佐藤亮一です!が地味な佐藤になり海外遠征で地味な佐藤がJimmy,Sato.に聞こえて? Story'sのペンネームで復活しました。(鷲さんの影響結構受けてます)親父の「山形の兄貴山形で店始めっから、皆で手伝いがんばらね!!」から、35年たった冬のある日、僕の携帯電話に突然齋藤社長からの電話.....。

ひょんなことから山住設備に入社、現在に至っています。



ノルウェーの英雄(メダリスト)達とおんちゃんに背中を押されて武者修行(名門倶楽部チームとオスロにて)



おんちゃんに買ってもらったブルワーカー!!現役です

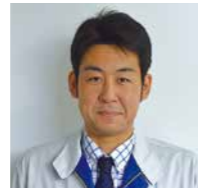
Our Member's Memory

現場で深まった 人と人とのつながり

入社してまだ10年しか経っていませんが、建設業自体での経験は20年を超え、大小実に様々な工事現場を経験させてもらいました。特に印象に残っている現場を挙げるとするならば、入社早々に担当した山市の某住宅の新築工事と、2014年に担当した、仙台市の地下鉄東西線の新寺駅のホーム建設工事でしょうか。

某住宅とは言っても普通の住宅ではなく、総工費?億、工期は3年にもわたる、隅々まで相当吟味した、和風建築の住宅でした。毎週火曜日に行われる定例会議は最終的に120回を超え、特に空調の吹出口の納まりや、引き渡し後も人目に付く器具関係の納まりには相当な配慮を行いました。各所に相当高価で貴重な木材を使用しているの、漏水するなんてもってのほか!今後のメンテナンス性も十分に考慮した確実な施工を心掛けていきました。住宅設備に関し、知識が乏しい当時の私を色々な方が助けてくれました。その時にかかわった人たちとは今でも交流があり、特に電気工事と空調工事を担当してくれた、東北電化のH君とS君とは、当時元請けの総監督から現場で一緒に何回も怒鳴られた仲という事もあり、今でも困ったときは助け合える関係になっています。

仙台市の地下鉄の現場は職長兼配管工としてドブプリと配管の世界に没頭できた現場でした(地下ということもあり、携帯電話が圏外というのも重要なポイントでした!)。元請けは機械設備業界では日本一の工事量を誇る高砂熱学工業で、その現場所長が私の中学校の後輩だったというのも、今となれば運命的な巡り合わせだったと感じます。100Aから150Aの鋼管を約900m、1本あたり約80kgの配管を二人で肩に担ぎ、高所作業車を使い、わっせわっせと配管していった現場でした。現場が終わるころにパイプの担ぎ過ぎで右肩の筋肉が発達し、こぶが出来たくらいでした(今はもうなくなってしまいましたが...)。地下鉄という独特の躯体形状だったので、協力会社のTさんと日々アイデアを出し合い、ウイ



深瀬 聡史
取締役工務部長
2009年入社

ンチやチェーンブロックなどを駆使しながら配管を納めていくのが、体は疲れますがとても充実した日々だったのを覚えています。竣工後に家族で地下鉄に乗ったときには、なかなか感慨深いものがありました。

人と人とのつながりを大切に、今後も永続的に会社が発展するよう後輩たちにも、臆することなく色々な経験を重ねてほしいと感じています。合言葉は「終わらない現場は無い!」



後輩と工事内容の確認



4人の子もたちと

今と昔で違うこと

昭和51年に入社し、旅籠町事務所で、一般住宅、アパート等の申請、完成図等を当時は手書きで、市水道部へ提出し、検査を受ける日々を送っていました。

2~3年後、下条に事務所が移転し、平穩に仕事を進めて2年後位に、夢にも思わなかった水道本管を、驚専務が落札し、山形住宅設備と東北設備2社で、半郷、蔵王上野を施工する事になりました。自分が代理人になり、本管の事は、何もわからず、大同設備社長、近藤様、五十嵐様等に、聞いて回って、教を願って、なんとか管の名前、切管等写真の整理、回報の提出をこなして、現場を納めた事を思い出します。



井上 伸一
技術顧問
1976年入社

その当時はK型で、今はGX型の耐震型になり、前以上に管理は大変になったと感じています。



未来の山住設備を夢見て

子育てしながら 働いた16年

長男を出産後、山住設備に入社し16年。当時産まれた子も高校生になりました。その後2人出産。今では4人の母です。古株から数えたほうが早いくらい長い年月を山住設備で過ごしてきました。核家族の我が家は、私が子どもたちの面倒をみるしかなく、子どもが病気で保育園に行けない時、学校から急な呼び出しを受けた時など、子連れ出社をした事もありました。今では考えられませんが・・・(笑)

母になって21年。子育てと仕事を頑張ってきたこの年月、あっという間だったように思います。子どもも大きくなるにつれ病気はしない分、送迎等に時間をとられ、まだまだ忙しい日々は続きますが、昨年(2019年)社会人になった長



千葉 恵美
工務部 庶務
2003年入社

女に下の子達を預け、泊まりがけでの外出が可能になりました。ほどほどに息抜きをしながら、次の60周年記念のメンバーに入ってもらえるように元気で頑張っていきたいと思います。



1歳4ヶ月の娘と